

すみよし

カトリック 住吉教会
聖堂内に飾られた生誕情景



第179号

2009年 クリスマス号

聖句

いつも歓びをわすれずに
たえず祈りなさい。
どんなことにも
感謝しなさい。

テサロニケの信徒への手紙 1

5 章 16~18 節

(フランシスコ会聖書研究所 1985 年発行)



[目次](#)

飼い葉桶の幼子を見て、

だれが神の子と思つたであろうか。

神は幼子のうちに隠れておられる。

神は「お忍びで」来られた。

この矛盾は、クリスマスの秘義の本質。

神の威厳は、卑しさのうちに、

神の力は、弱さのうちに、

神の永遠は、死すべきからだのうちに現れる。

神は静かに来られる。

神はその力を言いふらし、見せびらかせるとはない。

家畜小屋と飼い葉桶の出来事のうちに、

ゴルゴダの十字架はすでに、ひそかに予告されている。

カール・レーマン

「クリスマスに贈る100の言葉」（女子パウロ会発行）より



< 目次 >

☆ <u>聖句</u>	2
☆ <u>クリスマスの言葉</u>	3
☆ <u>目次</u>	4
☆ <u>黙想会</u>	山中 大樹 神父 5
☆ <u>鶴島巡礼</u>	HY 8
☆ <u>Sr. 渡辺和子教育講演会</u>	 10
☆ <u>広島・津和野巡礼</u>	 13
☆ <u>バザー</u>	KT 18
☆ <u>敬老の祝福</u>	 21
☆ <u>七五三</u>	 23
☆ <u>セニヨール・デ・ロス・ミラグロス</u>	 25
☆ <u>祈念祭</u>	 26
☆ <u>箕面教会の皆様をお迎えして</u>	 27
☆ <u>ターシャ・テューダーに教わったこと</u>	MT 28
☆ <u>図書コーナーより</u>	 30
☆ 教会日誌・信徒動静	(30~31)
☆ <u>後記</u>	 31

題字　故 千葉 健吉
表紙写真　甲斐 義明

太字は本ホームページ掲載の PDF ファイルのページ、カッコ付きは原本のページを表す

待降節 黙想会

【待つ】

講話

中山 大樹神父様

11月29日(日)

(イエズス会)

[ミサの中で]

私自身、召し出しを考えたのは18才の時です。洗礼を受けて直感的に司祭になるのではないでありますかと思いました。一般の信者ではない家庭に育ったのですが中学3年の時、六甲学院が長く支援しているインドのハンセン病施設に、学校が初めて実施した代表団の一員として行き、そこで献身的に苦労を苦とせずに奉仕している人々と触れ合い、彼らを支えているのはキリストへの信仰、神への信仰であると感じ、私もそういう者になりたいと思ったのです。大学生の時に係わった教会学校の子供達とのふれあいでは、無償の愛で接すれば相手に受け入れられる事を実感し、これから的人生を通じてたくさんの人を愛したいと思ったのです。



☆待つ

待降節に入り、降誕すなわちクリスマスを待つ最初の週である本日の福音はルカ21章です。この中に書かれている「待つ」には2つの意味があります。

① 2000年前に、かいば桶の中に産み落とされたイエス様を待っている。

② これから来られる主を待っている（再臨）。

「いつも目を覚ましていなさい」本日のポイントとなるこの言葉にも2つの意味があります。

①肉体的に目を覚ましている。②心が本当のあるべきものに向かって開いている。

この世の終わりにくるとされる裁きの時は暗いイメージですが、主に於いては決して暗いものではなく、皆で囲む食卓の、又、カナの婚姻のように喜びにあふれる完成した愛で満たされるイメージです。… 喜ばしい日々を待つ。愛に向かって待つ。希望に向かって待つ。どんなに辛く疲れている時も、「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんな時にも感謝しなさい」というパウロの言葉が行えるのは、おそらく愛の完成を信じる事が出来るからでしょう。愛のつながりを深めていくことが、神から私たちに託されている事です。神に希望を置き、神の国の愛の完成、到来に希望を置いて、人々と分かち合えることが出来るようにこの待降節の中で祈りましょう。

[黙想会から] 初めの祈り… 主の祈り

☆ 待降節を豊かに過ごすには？ *降誕祭とはいいったい何か。 *待つとは何か。

主の降誕・降誕祭=クリスマス… 馬小屋の中にイエス様を置く時、楽しみなのは心をほっこりと柔らかく、ゆるやかにしてくれる可愛い赤ん坊の姿だから。主の降誕を聞く

時、何か心が暖かくなったり、辛い毎日の中でも希望を持つことが出来たり、心がうきうきしたり人にやさしくしたくなります。しかし、赤ん坊として来られるイエス様がその後負って下る人生の苦しみ、痛み、血みどろになるその姿を含めて生まれて来てくださる事を忘れてはいけない。イエス様の苦しみは、私たちを救うという喜びの中にある苦しみであり、苦しむ事そのものを意味しているのではない。人が回心する時に忘れてはいけないのは、イエス様が溢れる愛で私たちを救おうとしてくださるという事。私たちは愛されているから回心出来るのだと思います。四旬節との違いは、血みどろになって亡くなっていく姿を追う聖週間は、大切と解っていても辛く、まして信徒以外では、クリスマスと異なり教会へ行く人は非常に少ない。

☆ イエスさまがこられる

- * 赤ん坊としてこられる
- * 再臨… イエス様がこの世に来られる生涯の初めから終わりまで全てに意味がある。
イエス様ご自身がメッセージを持っておられる。この事が主のご降誕の意味。これこそ神からのメッセージです。

☆ 待つ

私たちは大切な人を待っている、その人が大切であればあるほど待つ。近づき、会えばすぐに解り合い結びつきが出来る。待つということ事態に深い意味があり、心はその人に向いている。主のご降誕を待つという事は、イエス様が私達の人生にとってどういう方であり、どれほどの意味をもっているか。その重要性を見失なわず、イエス様に心を向けておられるかを静かに自分に問う期間でもあるのです。

- * 私にとってイエスさまはどういう方だったのか
- * 私の人生にとってイエス様はどういうインパクトを与えて下さったのか
- * 私はイエス様の重要性を今の人生に於いて見失っていないのか。

☆ 詩篇 3 から

② 主よ、わたしを苦しめるものはどこまで増えるのでしょうか。多くの者がわたしに立ち向かい ③ 多くの者がわたしに言います「彼に神の救いなどあるものか」と。④ 主よ、それでもあなたは私の盾、私の栄え わたしの頭を高くあげてくださる方。⑤ 主に向かって声をあげれば聖なる山から答えてくださいます。⑥ 身を横たえて眠り 私はまた目覚めます。主が支えていて下さいます。⑦ いかに多くの民に包囲されても決して恐れません。⑧ 主よ、立ち上がってください。わたしの神よ、お救い下さい。すべての敵の顎を打ち 神に逆らう者の歯を碎いてください。⑨ 救いは主のもとにあります。あなたの祝福が あなたの民の上にありますように。

2節～3節… 敵はどういうものか。(私に敵対する者が増え危険が身に迫っている)

4節～6節… 主は誰か、私は誰か。(私とあなたの関係。私の一番苦しい時に呼びかけるのは一番信頼している神=ゆるぎない信頼関係)

7節～9節… 私はどういうものか。

☆ 主

年末年始にお札をもらったり、縁起の良いものを買ったりするのは神仏と縁を結びたいからであり、私達がミサに来たり祈ったりするのは、命を掛けた生涯が主に掛かっているからです。私達が呼んでいる「主」は、私の人生の主人・一生の主人・全てがあなたにかかっているという意味の「主」であるはず。縁を結んで一生を托せると思っているでしょうか？私の人生の主はこの神だと言い切る事ができるでしょうか？

☆ ルカ 4 章・18 節

「主の靈がわたしの上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、主はわたしに油を注がれたからである。主がわたしを遣わされたのは、捕われている人に開放を、目の見えない人に視力の回復を告げ、圧迫されている人を自由にし 主の恵の年を告げるためである。」それは今日実現したとあり、4 章・43 節では「ほかの町にも神の国の福音を告げ知らせなければならない。わたしはそのために遣わされたのだ」とあります。イエス様ご自身の「神に一生をかける」というのは「福音を告げる」事と重なる。私達もイエス様に一生をかけようとするその時、「福音に一生をかける」事と重なるのです。

☆ ルカ 6 章・46 節

「わたしを『主よ、主よ』と呼びながら、なぜわたしの言うことを行わないのか。」 教えを守ると同時に行えと言われている。癒し・正義・愛を実現していく事を呼びかけられている。イエス様の心は主に向けられると同時に、目の見えない人、病にある人、打ちひしがれている人にも向けられた。御心が、「人を癒したい・救いたい」と思っておられる時、御心は天の父に向かっていくと同時に、それらの人々にも向かっていく。父の御心はルカ・15 章に明らかな様に人々を求めて止まない。苦しんでいる人を見るといかにしても癒したいという御心で満ち溢れている。その父の御心に一生をかけたいと思う時に、神に憧れると同時に、人々の現実にも目を向けざるをえない。ルカ・6 章に「あなたたちの父が慈しみ深くあるようにあなたたちも慈しみ深くありなさい。」とあります。

☆ 慈しみ

イエス様を主と呼ぶ時、神を求めて生きる時に、慈しみ深く生きているという事が神と同じ生き方なのだと思う。慈しみ深くあるかどうかが、私と神との間を深める指標であり、神との間柄が深まっていく証しです。 私たちは主を神として生きているか？ 私たちはイエス様を待ち望んでいるか？ 私たちも慈しみ深くあるか？

- * 私の人生の主は神なのか？
- * 私は主が来られる事を本当に待っているのか？
- * 私は神が慈しみ深いように慈しみ深い者なのだろうか？

この待降節の間に沈黙の内に自分自身に問い合わせ、自分を見つめたいと思います。

慈しみ深くあられた聖母マリア様を通して主が来られる事を願い、又、主のように慈しみ深く生きていかれる様に聖母の取次ぎを願いながら・・

恵あふれる聖マリア・・・

編集部抜粋

《 鶴島巡礼記（鶴島哀歌）》

HY

10月12日（祝）7時30分、鶴島巡礼へ赤波江神父様の車で出発した。この日は初秋の快晴で気持ちのいい日だった。鶴島へは教会から何度か巡礼の機会がありながら行ったことがなく初めての巡礼だった。

山陽自動車道を走り備前に入る。備中、備後は少し解るつもりだが、備前焼で有名な備前の位置をこの歳になるまで実感していなかった。

9時頃、日生（ひなせ）に到着、湾には海水が岸壁を打っている。それは神戸で見る海と違い田舎で見た海を想い出させてくれる。

やがて長崎、浦上の信徒46名も到着。主催、広島教区岡山教会からは11時間夜の道を歩いてこの巡礼に参加する人も有ると聞く。26聖人の道を巡礼する巡礼も有るが、11時間も歩く巡礼は巡礼としてもっと認められてもいいと思う。日生港からチャーターワン船で25分鶴島に着く。桟橋が壊れていて潮も退いていたので舳先から慎重に島に降りる。シスターの先導でロザリオを祈りながら墓がある山へ登っていく。お墓と言っても山の斜面に自然の石が置いてあるだけで気付かずに腰を掛ける人もいる。

このお墓を見てキリストに従う者の死を見る思いがした。キリスト弾圧以来どれほど多くの人が名前も知られずに土に葬られたことだろうか。それもまたキリストに従う者が歩むゴルゴタの道、栄光の天の国に到る道なのだと思う。

ミサを司式されたのは長崎教区小島神父様。説教の中で、信仰を守って長崎に帰った人、棄教して帰ったとの間に恨みや差別があつてはならない、許しあい信仰を共にすることの大切さについて話された。

またミサ挙領の歌として鶴島哀歌が歌われた。この歌についても小島神父様はこの歌を作ったのは長島の近藤宏一さんという方で昨年？亡くなられたと話された。

赤波江神父様は哀歌ではなく讃歌だろうと言われたがその通りだと思う。私達キリスト信者から見ればキリストに従った人達の栄光の讃歌である。

しかし長島にハンセン病のため隔離された方から鶴島を見た時、小さな小さな耕地すら無いような島に流された人は自分達よりもっと哀れに思えたに違いない。社会と隔絶された中で生きた人達に対する共感もあったのだろうかと思われる。鶴島に捕われたキリストian達が、イスラエルの民がバビロンの捕囚から開放されて喜びに満たされてイスラエルに帰った時のように、鶴島から喜びに満たされて長崎に帰ったように、また長島の人達も長い歴史のくびきから解放されたことは現代医療の大きな喜びです。

鶴島哀歌 作詞、作曲 近藤宏一

- ①瀬戸の渦潮みおろす丘に石の十字架は静かに眠る
流刑の鞭に倒れし人の悲しい祈りよその声を
ああ鶴島に今日も蜜柑の花散るばかり。
- ②うつし世遠く捨てし心に秘めて指くるロザリオ一つ
涙にぬれし踏絵のみ母に捧げし誓いよその玉よ
ああ鶴島に今日も海鳥さえずるばかり。
- ③巡る砂浜たたずむ小道しのぶ歴史にかけろうもゆる
とわの救いに命をかけたせつない願いよその歌よ
ああ鶴島に今日も密かに夕凪せまる。



《 Sr. 渡辺 和子教育講演会を聴いて 》

2009年11月29日（日）満場の拍手の中、シスターは檀上へ姿を現されました。優しい微笑のお顔、眼差し、お声、いつもの穏やかなシスターのお話ですが、時には場内に笑い声が起こるなごやかな講演でした。

ノートルダム清心女子大学 理事長

シスター 渡辺和子

教 育 講 演 会

「心の教育と親の役割」

シスター 渡辺和子 プロフィール

北海道旭川出身。聖心女子大学を経て昭和29年上智大学院卒業。

昭和37年米国ボストンカレッジ大学院で博士号取得。

「美しい人に」「心に愛がなければ」など著書多数。



生徒たちや社会の子供たちへの悪への誘惑からどうやって守るか、子供たちは親や教師のいう通りにはならない。する通りになるのだ。大人が身を賭して生きてゆかねばならない。

心の教育に3つのポイントがある。それは待つことが出来る心、切れない我慢する心、思いやりを持つことが出来る心。自分を大切にすること、それは利己的ではなくどんな自分をも受け入れる、いいかげんに扱わない。大人全体の責任である。21世紀は便利、快適、スピーディの時代。

①待つ　　自分の心との戦い。私たちも待つことが不得手になってきている。人は神の似姿としてつくられ理性と自由意志がある。自由とは考える力と選ぶ力。わかっているけれど止められないという生活をしていて、思うようになら

ないと子供に当たってしまったりする。判断力と意志の力の間の距離が出来てしまふ。刺激のあるものを求めて不祥事を起してしまう。

学生たちとの合言葉に「面倒だからしよう」というのがある。よりよく生きるものは面倒をいとわない。面倒だからしようというのが自分らしさになる。

自由学園の自由とは「真理はあなたたちを自由にする」という聖書の言葉からとられた。

自由には、あなたがたは脱いだ履物をそろえる自由がある、そろえない自由もある、考え方選びなさい。よりよく生きられるほうを選ぶ。考えてよりよいほうを選ぶ自由、何をよしとするか。神の御心に叶うことをよしとみる。マキシミリアノ・コルベ神父は考えて死を選んだ。自分のしていることが人の為になる。

自分の為に選んだことで泣く人がないように考える。相手の喜びを考える。

人生の穴が大きく開く。思いがけない穴があり各々異なった穴がある。穴だけの人生。各々の人が持つ穴。

ヨハネ 9 章 神の栄光が現れる、「なぜ」ではなく「何の為に」と考える。

振り返り原因の追求は大事だが、前に進む為に必要なのは「何の為に」という考え。運命は冷たいが摂理は温かい。

今の若い人は打たれ弱くなってきていてすぐ落ち込む。人生の穴から見ることで開くまで見えなかつたものが見ることが出来る。

躓いたり、転んだり、失敗したり裏切られたりしたとき、「何の為に」と考えて、そのおかげで人に優しくなり物事を深く考えることが出来る。穴が有難いと思えるように。通っている苦しみを自分の行き方、笑顔で倒れた姿を見せる事で強い心を持つことが出来る心を育てる。

十字架は苦しみ、この苦しみをなぜ大切にしているか。人生の穴。

②思いやる心

自分がされたらうれしいことを他人にする。お節介になつてはいけない。

詩・ほほえみ

もし、あなたが期待したほほえみが得られず不愉快になる替わりにあなたからほほえみかけなさい。ほほえみを忘れた人程あなたからのほほえみを必要としているから。

人が変わることを待っていても変わらない。挨拶、ほほえみが返ってこない

時は神様のポケットに入ったのだ、神さまのポケットが増えていくと思うようにした。自分の心が落ち込んでいるときは辛いが一粒の麦を考える。

「小さな死」を心の中で実行する。嫌な人に会う時、口の中で「小さな死」をつぶやく。「小さな死」を沢山積んでおく。キリストはご自分から死を選んだことで多くの実を結ぶ。人生の穴がおかげさまでという気持ちで見えるようになった。

世間体、お天道さま、人前、人聞きを考える。人が人として見られていない。自分の世界に引きこもり、回りは景色としか見えないという気持ちが増えていく。人を人として尊ぶ気持ちが薄れる。

文明は人が一人で生きていくことを可能にしている。便利さの影で失ったものが思いやる心である。人の手助けを必要としない。人のぬくもりを言葉・笑顔から必要としているマザー・テレサの仕事は福祉事業と思われがちだが、愛に基づく心、人のぬくもりがある。

③自分を大切にする心

利己主義ではなく、みじめな自分を大切にする気持。人から大切にされることによって価値を知ることが出来る。現在は条件付で愛される事がある。少子化、計算ずく、作る。作ったものは壊せるので命への軽視化になる。

期待を背負って生まれ、思うようにならない時虐待されたりするようになる。命が大切だと何千回何万回いわれようとも、あなたが大切なのだと一回いわれたら私は生きてゆけるというCMがあった。

どんなときにも見捨てない愛、一人一人がかけがいのない命。

置かれたところに咲く。

或る神父様から贈られた言葉より

神がお植えになった所で咲きなさい。咲くということは決して仕方がないということではない。咲くということは自分も周りの人も幸せにする。たった一つのところで神さまがお植えになった所で咲く。

どんなに辛くても人を不幸にすることは出来ない。不機嫌は環境破壊である。口から出すダイオキシン、顔や態度を浄化しよう。

どんな不幸を吸っても吐く息は感謝でありますように。

全ては恵みの呼吸です。神は変わらぬ方ではない。幸せは自分の心が決める。

人に優しくぬくもりを伝える人になって回りの子供達の心を笑顔に変えよう。

(編集部)

[目次](#)

《 広島～津和野巡礼 》

8月7日～9日 住吉教会中高生サマーキャンプ

夏休みに中高生会の広島・津和野巡礼がありました。
この巡礼の思い出を綴った中高生会の文集より抜粋いたします。

赤波江神父様の巻頭言より

この 8 月に住吉教会の中高生が中心となって 2 泊 3 日の広島・津和野の巡礼に行きました。住吉教会としては久しくなかった行事でした。しかも目的地直行のバスや新幹線ではなく、青春 18 切符を使って電車を何度も乗り継いでの旅であり、普段は味わうことのできない趣のある楽しい旅でした。

～中略～

今回は参加者 17 名がまるで家族・兄弟のような和やかな雰囲気で、3 日間不愉快なことは何ひとつなく、非常に満たされた幸せな日々でした。全員本当に楽しそうでした。特にこれから住吉教会を担っていく中高生たちにとって今回の巡礼は大きなインパクトとなったようです。これからもこのような行事を続けて中高生たちに夢を与えていきたいと思っています。



[目次](#)

中一 K

8月7日・8日と、2つの教会に行きました。

7日は幟町教会でした。すごく大きな教会でびっくりしました。地下聖堂でミサをやりました。こここの教会は広島教区司教座聖堂、また世界平和祈念堂でもあることにびっくりしました。さらによくても楽しい神父様が出迎えてくださいました。その方は後藤正史神父様です。赤波江神父様と仲がよくて一緒に話していると、とてもゆかいでした。

8日は、津和野教会に行きました。近くにある乙女峠に登ってミサをしました。十字架の道行きもたどりました。そのひとつひとつでお祈りをしました。イエス様の苦難を改めて感じました。また、広島では散策もしました。特に心に残ったのは原爆ドームです。被害にあった人々の話を聞いて平和の大切さを知りました。

今回、広島・津和野で、教会やその近くの場所のことをたくさん感じることができたのでよかったです。

中一 S

幟町教会、津和野教会に行き、どちらも住吉教会と違っていると思いました。幟町教会は、住吉教会よりも大きく聖堂もたくさんあり、びっくりしました。また、後藤神父様が出迎えてくださり、そして神父様はとても楽しませてくださいました。

原爆ドームにも行きました。今までテレビでしか見たことがなかったけれど、実物を見て、おじいさんからも話を聞くと、今まで知らなかつたことをたくさん知ることができ、原爆のおそろしさがよく分りました。

びっくりすることもありました。行ったことのない所に行き、SLなどにも乗ることができたのでよかったです。

[目次](#)

中一 Y

～第一日目～ 嶺町教会に着いた。教会でミサをしたあと原爆ドームに行つた。8月7日は広島原爆投下の次の日だ。語り部さんから話を聞いた。話は当時の有様が目に浮かぶようで強く聞き入ってしまった。その後宮島へ行った。さすがに三大風景なだけありその風景は美しかった。

～第二日目～ 朝早く起き、塔の上に登った。そこから見える景色はどこか神戸と似ていて親しみを感じた。その後、新山口駅から津和野まで SL に乗った。そのことに関しては の一たっち。

そのあと乙女峠でミサをした。大自然の中でするミサはどこか気持ちがよかったです。

中二 H

今までの事を思い出すと長いようで短かったです。

広島では後藤神父様のお話や宮島などに行ってすごく楽しかったです。初めて行った原爆ドームでは原爆にあわれた方にお話を聞けて、すごくためになりました。宮島では、厳島神社を見て感動しました。夜ごはんの広島焼きは初めて食べておいしかったです。

津和野では、初めての SL に乗っておもしろかったです。乙女峠はすごくきれいでびっくりしました。「イエス・キリストの 12 の祈り」の時は心にジーンときました。今、私たちは幸せな暮らしをしているのに、約 100 年前はキリスト教を信じるだけで拷問されたりしてたいへんだったことを知ってすごく悲しくなりました。

キャンプはあと少しで終わってしまうけど、楽しみたいです。

中二 W

住吉から出発した時は、「暑い」しか頭になかったけれど、広島に初めて行って広島の人たちの熱い思いが伝わってきました。

後藤神父様はとてもおもしろく、優しいので大好きです。広島焼きは、みんなでおいしく食卓を囲むことができてうれしかったです。リーダーや神父様が、もみじまんじゅうやジュース、ソフトクリームをくださってうれしかったです。

乙女峠、宮島、原爆ドーム、温泉に行ったり、SL や広島電鉄に乗ったり、お好み焼きやカレーをみんなで食べたり、貴重な体験ができて、いい思い出になりました。

このキャンプを実行しようと教えてくれた神父様とリーダー ありがとうございました。

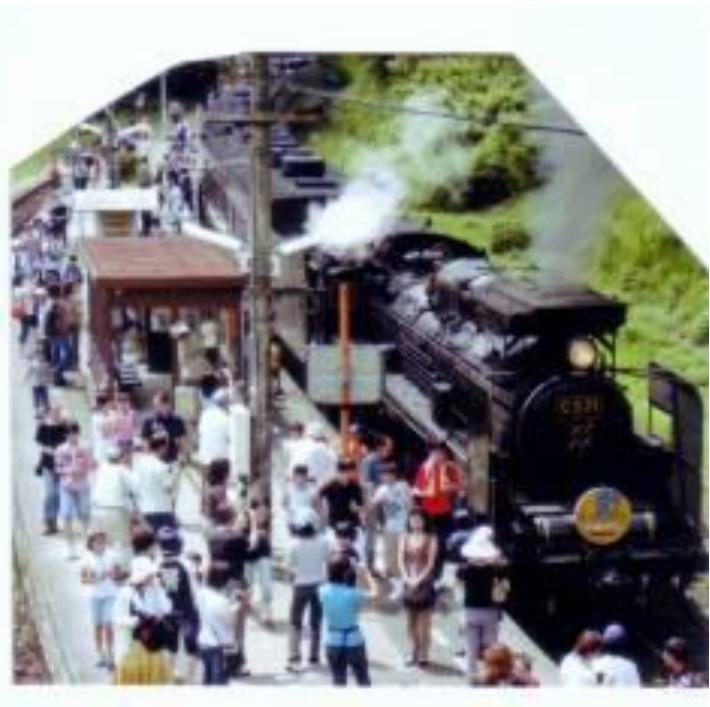
高一 W

「『青春18きっぷ』津和野の巡礼をしよう」という神父様の呼びかけにより企画されたこの広島・津和野巡礼。これまでの教会学校等のキャンプはすべてリーダーが企画・実行されていたものに、ただサブリーダーとして参加させて頂いていただけでしたが、今回は中高生キャンプということもあり、リーダーと神父様と協力し何回も打ち合わせをし、自分も計画に携わるという初めての経験をさせて頂きました。

堅信式の頃から、神父様の呼びかけによって活気を戻した住吉教会の中高生。この巡礼の旅で本当に兄弟のように仲良く過ごすことができました。楽しく旅をしている私達の中にきっと神様がいると感じました。

二日目の夜、津和野教会の聖堂をお借りして「もっと教会をよくするのは、どうしたらよいだろう」とみんなで話し合いました。これからの中高生の活躍についても話し合いました。これから教会を担う中高生が、いろいろな活動を通じ、活気に満ちあふれた教会にしていってほしいです。これからの中高生の活動に希望と期待で胸いっぱいです。

最後にこの巡礼に向けていろいろ準備してくださったリーダ一方、この巡礼を発案し、祈りとミサをして下さり、住吉の中高生をまとめて下さった赤波江神父様に感謝です。そして、この巡礼の旅を良いものにするためたくさんのお恵みを与えてくださった神様、ありがとうございました。



リーダー NS

広島の幟町教会の後藤神父様が、「君達が、広島・津和野巡礼の旅に来られたのは『PLAN OF GOD（神様のご計画）』だよ」とおっしゃっておられた様に・・・神様が私達をここに呼んでくださったと実感できる恵み豊かな旅をすることができました。

広島では、原子爆弾の犠牲になられた方々のために、平和がいつまでも続きますように・・・と。

津和野では、苦しい苦しい拷問にあっても信仰を守り貫いた殉教者のために・・。ロザリオの祈りを唱えながら巡礼しました。（中略）

この旅は、高校生のWくん・Yくんが中心になってプランを練ってくださったのですが、本当にワクワクすることも盛り沢山でした。ありがとう。

子供達もこの旅で今まで以上にお互いを知ることができたし、すごく成長したように思えます。君達は教会の明日を担う宝物です。

神父様をはじめ、一緒に旅をできた神様に感謝！！

そして、いつも私たちと一緒にいてくださる神様に感謝！！



また、住吉教会ホームページにも、「広島～津和野～山口巡礼記」が載っております。

(編集部)

《 バザー報告 》

実行委員長 KT

例年ならば 1 月に催される住吉教会バザーですが、今年はインフルエンザの影響を避けて一ヶ月早く 10 月 18 日(日)に開催されました

晴天のもと 9 : 30 のミサに始まり バザー会場は 11 : 00 にオープンしました。

教会内ホールは、喫茶・お寿し売り場・園田の聖パウロ女子修道会シスターのホーリーショップ。 喫茶はホールが明るいのでイタリアンカラーにして、テーブルは白と赤のクロスの上にグリーンの布をのせました。美味しいコーヒーに手作りのケーキセット、グレープフルーツのゼリー、紅茶・ハーブティーはおかわり自由です。その外では教会学校の生徒達が輪投げゲームをしてにぎわっていました。

奥の会議室 2 部屋は落ち着いた雰囲気で、昨年来好評の赤波江神父様直伝のタイカレーと恒例のビーフカレー。 そして小豆がふっくらして美味しい白玉ぜんざいの部屋です。

幼稚園園庭は、焼き鳥と焼きそば。例年のごとく男性陣が慣れた手つきでくしに刺した鶏を焼き、盛り上がっていました。舟形に入ったソース焼きそばは味・量ともに満足で 150 食が売れました。

幼稚園教室内には、リサイクルショップ・雑貨・手芸のお店が入りました。手芸のコーナーには短期間にがんばって作ったパッチワークの小物・暖かい毛糸のアームカバー・色々なデザインのエプロン・アクリルたわし等々。どのコーナーもお求めやすいお値段にしたため、子供達もお小遣いを手にゆっくり買い物が出来ました。

例年そうですが、幼稚園の先生方にはお休みにもかかわらず、とてもお世話になりました。幼稚園の在園生・卒園生のご家族も多く来場してくださったように思います。バザーが星の園幼稚園・卒園生の再会を喜び合う日にもなっていました、教会と幼稚園がひとつにかけあう楽しい一日になると思います。

後日、11月10日(火)反省会をかねた慰労会をいたしました。参加者は 22 名ほどお茶とケーキで和やかなひと時でした。ゆっくり流れる時間のなかで思いました。一ヶ月に一度くらい、あの手芸の集まりを続けましょうと。

住吉教会の特産品を創ろうとまでは思いませんが 誰かのために手をうごかして、口もうごかして、何かを作っていくましょう。

《バザー》

10月18日 於 住吉教会



リサイクル・古着コーナー
「いいものがでてますよ！」



評判のタイカレー！！
大忙しのキッチンです。

ビーフカレー



お待ちしてま～す！

F r. 赤波江の
タイカレー
タピオカココナツミルク
セット

素敵な手作り
の手芸品！



ゲーム
コーナー



《 敬老のお祝い 》

9月17日(日)

敬老の日の祝福がミサの中で捧げられました。この日は大久保 武神学生（明石教会出身）が休暇中でいらっしゃっており共にミサを捧げられました。

大久保神学生のお話 から

私は日本カトリック神学院（6年）の現在4年生。去年まで東京と福岡で別々のカリキュラムの神学校でしたが、一つの学校になり学年によって東京と福岡で学んでいます。私は現在は福岡で学んでいます。6時起床・6時15分より祈り。夕食の前にも祈り。よく祈り、よく学び、よく遊びです。助祭叙階後1年間フィリピンで海外研修をします。きっかけは、いろいろ迷ったりもしましたが出身教会（明石）の憧っていた神父様の訃報を聞いて司祭になろうという確信がもてました。召命は神の御旨を叶える為にいろんなチャンスが与えられます。

編集部 拠糸

奥の会議室で行われた祝賀会はTさんの司会。衣装もバッチャリのMさんの掛け声で懐かしい「せっせっせっ」を皆で。その後、みごとな？皿回しをご披露。大久保神学生のお祈りの後、赤波江神父様のお言葉は・・・

「人にはその年・その時にしか出来ないことがあります。ユーモアは徳です。共同体に甘さ・温もりを与えてくれます。





おめでとうございます



七五三のお祝い

11月15日

おめでとうございます





『「二どもの祈り』　～七五三のお祝い～

かみさま、わたしたちは、おとうさま、おかあさまの
おかげで七五三のおいわいをすることができました。
ありがとうございます。
これからもげんきなよいこになつて、
かみさまをよろこばせることができますように
おまもりください



『親の祈り』～七五三のお祝い～



すべての父であられる神様、この子供たちを授けて下さったことを
感謝いたします。この子供たちが強く正しく生きるために必要なお恵みを
常に与えて下さい。また私たち親としての尊いつとめをふさわしく
果たすことができますように、光と力を与えて下さい。
心からお願ひいたします。



《セニヨール・デ・ロス・ミラグロス》

10月 25 日（日）

今年のセニヨール・デ・ロス・ミラグロスのミサは、メキシコから来日のフリオ神父さまとシリロ神父様の共同司式で、スペイン語圏の方が大勢参加されました。ミサの前にスペイン語の歌をシリロ神父様が指導してくださいました。

フリオ神父お説教から

奇跡の主・キリストの癒しは、初代教会の時代にも今も与えられている。生活の全てが奇跡と思う。ラテン系は辛い時も神に賛美を捧げる。祈る事、踊る事、歌う事を通じて・・・必要なものは何か？乾いた心が欲しているのは何か？それらは十字架に付けられた命を捧げて、沢山の人々に与えられている。

イエス・キリストと出会い、復活の命を頂こう。



[目次](#)

《 祈念祭 》

11 月 1 日(日)

ミサの中で今年亡くなられた方々のお名前が読み上げられました。小聖堂祭壇には亡き方々への祈りの気持が記されたカードが奉納され、扉の開けられた祈念堂の前ではお焼香と共に祈りが捧げられました。出会いの広場では心づくしの温かいお茶が用意されました。



[目次](#)

《 箕面教会の皆様をお迎えして 》

11月14日（土）夜通し降った雨が上がった朝、箕面教会の皆様が巡礼にお越しになりました。和田幹男神父様、この春叙階なさったク一神父様、信徒の方総勢36名の皆様でした。赤波江神父様がタイへ赴任なさる前に司牧なさった教会なので「お懐かしい・・・。」「おぼえていらっしゃいますか？」の会話が弾みました。

3人の神父様共同司式のミサの後、昼食を摂られ、又バスに乗って次は中央教会、たかとり教会へと巡礼の旅を続けてゆかれました。（編集部）



《 ターシャ・ティューダーに教わったこと 》

MT

昨年 6 月 18 日、92 歳で帰らぬ人となったターシャ・ティューダーを私が知ったのは 10 年程前、森のイスキアの佐藤初女先生と、宮迫千鶴さんの「森のイスキアで話したこと」というお二人の対談の本の中で、年をとるのが怖くない本として紹介されていて、早速その本を探しました。大阪の阪急百貨店で見つけましたが、まだ英文の解説しかありませんでした。その後間もなく日本語文が出、次々と出版される本も何冊か買い求め、すばらしい絵本作家ターシャの絵と文、お話し、生き方に感動したのです。

早 1 年余りが過ぎ、『ターシャ・ティューダー最後のことば(ラスト・インタビュー・人生の冬がきたら)』が 6 月に出版されたのを読みつつ、この方のように過ごせたらと痛切に思う日々なのです。この本の中から、このように努めたいと心に残った言葉を少し選んでみました。

☆ 暮らしに喜びを見つけるのに大切なことは何ですか。☆

美しいものに囲まれて暮らすことは、私たち現代人にとって大切なことでしょうか。

ターシャは・・・・こんな言葉があります。「美は見るものの目に宿る」私は美しいものに囲まれるために、一生懸命庭に植物を植えたり、何か芸術作品を購入するべきだと言うつもりはありません。ただ、皆さんに自分のまわりを美しい考え方で満たし、そして自分と親しい人々に対して愛と優しさのこもった行動をとることをおすすめします。

☆ 人生に冬が来たとき、何を心がけたらいいのですか。☆

ニューイングランドの長い冬、ターシャさんにとって一番楽しみなことは何ですか。また人生における冬と思える時期が来たとしたら、何を心がければ前向きに生きられるのでしょうか。

ターシャは・・・・私にとってニューイングランドの長い冬は、内省と室内での作業のための穏やかで静かな時間です。人が、春を青春時代、夏を活力に満ちた大人の時代、秋を落ち葉とともに過ぎゆく年月、そして冬を死のときとして、四季の移り変わりと人生の間に類似点を見出そうとするのも一理あると思います。でも、自然の中では、これは単なるサイクルに過ぎません。

それに冬はいつも再び巡って、新しい生命、春の希望へと向かう季節です。人類の考え方もそうしたほうが良いのではないでしょうか。

人生を楽しんでいる人なら誰でも、来るべき死を喜んで心待ちにはしないものです。でも、私たちはこの必然をすべて受け入れなければなりません。遅かれ早かれ人はみな死を迎えます。どんなふうに、どこで、それからいつ？ それは誰にもわからないこと。

それでもやはり、私たちは人生をより良くするために多くのことが出来るのです。身体のことでなら、健康に良い食べものをとて適度な運動をし、適切な体重を維持し、自然でない物質を避け、十分な睡眠をとり、ストレスや危険を避けようと努力することが出来ますよね。もっと大切なことは仲間を愛し、家族や友人と仲良く暮らし、優しさとゆるしを日々実践し、自分の仕事を楽しみ、そして心が満たされる趣味を持ち、親しい入たちと嘗みを分かちあうことで、幸せな人生を送れるように努力できるということです。

☆ 時間と手間を惜しまなかつた日々 ☆

ターシャの言葉

《たとえ退屈でつまらないときがあるとしても、
暮らしに喜びを見出そうとすればきっと
暮らしはより良いものになるはずです》

ターシャの絵本より



《自分の手で何かを作り出すことから素晴らしい
喜びが生まれると私は強く思っています》

ターシャ・テューダー 最後のことは より

《 図書コーナーより 》

- ◎ クリスマスに贈る 100 の言葉
アルフレート・ハルトル 編
里野泰昭 訳
女子パウロ会 発行

いろいろな人がクリスマスについて、感じたこと・思ったことを短いフレーズで表しています。クリスマスを迎えて、私たちも神が人となって生まれて下さったことに思いを馳せてみては如何でしょう。

- ◎ 巨匠が描いた聖書 町田俊之 編著
いのちのことば社 発行

ジョット、ダ・ヴィンチ、ミケランジェロ、ラファエロ、レンブラント、シャガール・・・などおなじみの巨匠30名による聖書をテーマにした名画が、旧約・新約聖書の流れに沿って収録され、聖書の本文と共に解説をも付されているので、とても理解しやすく、いわゆる目で見る聖書としてそのメッセージを味わうことが出来ます。

ゴッホも有名な画家の作品を模写したものであるとはいえるが、あの独特的タッチで聖画を描いていたとは驚きです。御絵として親しまれてきた名画も多数見受けられ是非ご覧になって頂きたい一冊です。

- ◎ ようこそ天の国へ 晴佐久 昌英 著
教友社 発行

晴佐久昌英神父様の第4冊目の説教集であり、一人一人に語りかける様な文
体です。

神様の愛を告げる「福音宣教」が人の心を癒し、世の中を救い、さらなる尊い世界を造りだします。



世界中に散らされ、
世界のすみずみにまで散らされた、
すべての人たちと、
わたしたちは、飼い葉おけの前で結ばれる。
それは慰めに満ちた神秘。

エディット・シュタイン

「クリスマスに贈る100の言葉」女子パウロ会発行



《 後 記 》

後期高齢者が数人集まりました。「イエス様はただ一つ老いの苦しみはご存知ないわね。」アレコレとよくある日常の嘆きのオンパレード。そのうち何故か大笑いになってしまった。十字架のお苦しみに比べたら取るに足りない事に気付きました。先の事は神様におまかせ。(私たちはおまかせするのは上手なのです。) 今度集まる時まで元気でいましょうね。』『三人以上集まる所に私は居る』とのイエスさまのお言葉は本当でした。よいクリスマスが迎えられそうです。

H

今はすっかり慣れて「住吉教会」と思うと、円型の聖堂のイメージが目に浮かぶようになりました。献堂式から三年半の月日の経つ速さにびっくりしています。目先のことにはばかり気を取られている内に、アッという間に2010年は目の前。今年は政治でも世の中は<チェンジ>の年でした。これからデジタル化にも付いていくように、かなりがんばらなくては・・・しかし慌しく過ごすばかりではなく、来年こそは心静かに祈る時間も大切にしたいものです。

AM

「すみよし」第179号

発行日：2009.12.25

編集・発行：広報チーム

編集責任者：赤波江 豊神父

発行所：神戸市東灘区住吉宮町2-18-23

カトリック住吉教会

TEL：078-851-2756

FAX：078-842-3380

<http://www.sumiyoshi.catholic.ne.jp>